

STI for SDGsに資する 科学技術外交の推進

2018年7月26日
外務省 国際科学協力室
室長 小林 敏明

科学技術顧問による科学技術外交の推進

2015年9月、外務大臣科学技術顧問として、
岸輝雄東京大学名誉教授を任命。

主な役割:

- 科学技術の活用を通じた外務大臣の活動支援
- 海外の科学顧問、科学者、研究者とのネットワーク強化
- 各種外交政策の企画・立案における科学技術の活用について外務大臣及び関係部局への助言提供

科学技術の各種分野における専門的な知見を集め、科学技術外交の企画・立案に活用。

【座長】岸輝雄 外務省参与(外務大臣科学技術顧問)

【委員】(2018年7月現在, 17名)

学術政策	吉川弘之	科学技術振興機構特別顧問	国際関係論 (アジア研究等)	白石隆	JETROアジア経済研究所長 立命館大学特別招聘教授
科技政策	有本建男	政策研究大学院大学教授 JST CRDS上席フェロー	国際政治 (東アジア・安保等)	田中明彦	政策研究大学院大学長
科学政策・ 公共政策	角南篤	政策研究大学院大学教授・副学長	国際政治・ 外交史	細谷謙一	慶應義塾大学法学部教授
生命科学	浅島誠	東京大学名誉教授 産業技術総合研究所名誉フェロー	安保・外交政策 パブリック・ディ プロマシー	金子将史	政策シンクタンクPHP総研首席研究員
医学	永井良三	自治医科大学学長	農学	岩永勝	国際農林水産業研究センター理事長
生命工学	竹山春子	早稲田大学理工学術院教授	環境	安岡善文	東京大学名誉教授
情報通信	喜連川優	国立情報学研究所所長 東京大学生産技術研究所教授	エレクトロニク ス	中村道治	科学技術振興機構顧問
原子力 (放射線医学)	佐々木康人	湘南鎌倉総合病院付属臨床研究センター 放射線治療研究センター長	ベンチャー	松見芳男	伊藤忠商事株式会社理事
天文物理	吉井謙	東京大学名誉教授 アリゾナ大学スチュワード天文台教授			



STI for SDGs に向けた提言①



未来への提言(2017年5月) 科学技術イノベーションの「橋を架ける力」でグローバル課題の解決を SDGs実施に向けた科学技術外交の4つのアクション

序論

- 提言の狙い: 日本は今後の国際協力において、科学技術イノベーション(STI)を通じて持続可能な開発目標(SDGs)達成にどう貢献すべきか(「STI for SDGs」)
- STIは、SDGs実施の上でも、有限のリソースを最適化し拡大を図る「切り札」となりうる。**

1. イノベーションで 変わる, 変える

ソサエティ5.0を通じた世界の未来創出

2. 捉えて, 解く

地球規模でのデータ活用による解決

3. 結ぶ, つなげる

セクター間の連携, 世界との一体化

4. 育てる

「SDGsのためのSTI」人材の育成

結び: コアメッセージ

- STIは、異なるセクターや国・地域に「橋を架けて」一体化させ、ひいては次世代の社会を創り出す未来への「道」を拓く力としてSDGsの達成に貢献できる。
- 4つの行動を柱として、**日本外交は、STIを通じて、積極的に世界におけるSDGsの実施において先導的な役割を果たすべき。**

2

STI for SDGs に向けた提言②



国連持続可能な開発目標(SDGs)達成のための科学技術イノベーションとその手段としてのSTIロードマップに関する提言(2018年5月)

～世界と共に考え、歩み、創るために～

- 科学技術イノベーション(STI)はSDGs達成の「切り札」。一方、SDGsはSTIの発展を方向付けるものでもある。
- 世界の多様なステークホルダーが連携しながらSDGs達成にSTIを活用するため、**計画表(ロードマップ)と共有プラットフォームの策定が重要。**
- 各国で置かれた状況が異なる中、各国のロードマップに**共通する要素の抽出**や、策定する**プロセスの共有**が有益。



3

提言の発信と今後の展望

国連第3回STIフォーラム(2018年6月)の議論に貢献

岸科学技術顧問の発表概要:

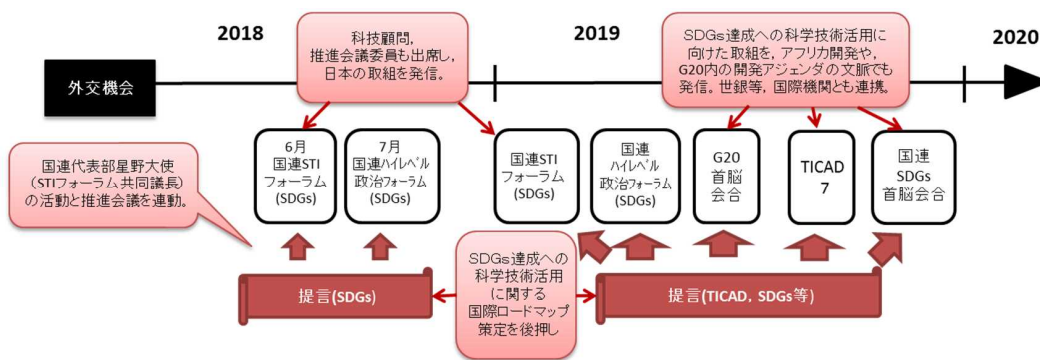
- STIはSDGs達成に貢献するものであり、STIで課題を解決してより良い未来社会を形成していくことは、先進国、新興国、途上国にとって良いアプローチである、一例として日本は人間中心の包摂的社会としてのSociety5.0の実現に取り組んでいる旨発言。
- また、全ての人々がSTIの恩恵を享受できるためには、STIの光と影に留意しつつ、SDGsの目標間の相関関係や各政策の分析といった「知の構造化」に基づくSTIロードマップが有効である旨指摘。
- STIロードマップにより、多様なステークホルダーが、点や線ではなく面で協同することを可能にし、新たなビジネス機会をもたらす、新たな科学フロンティアの開拓につながり得る旨述べ、日本では安倍総理のイニシアティブでSTIロードマップ関連の施策に取り組んでいる旨紹介。



岸顧問

中村委員

大阪G20, TICAD7, SDGs首脳会合などを念頭に提言・発信を強化



(参考) 国連STIフォーラムの概要①

1 STIフォーラムとは

- SDGsの実施におけるSTIの活用を促進するために立ち上げられたマルチステークホルダー・フォーラムで、技術円滑化メカニズム(TFM)の一つ(2030アジェンダ文書パラ70)。
- 国連事務総長に任命された10人委員会及び共同議長がリードするプロセス。2017年12月、共同議長に星野国連代大使及びサンドバル・メキシコ国連代次席常駐代表が選出。また、2018年4月、SDGsの実施促進、特にSTIフォーラムへの助言等のために創設された10人委員会の委員に中村科学技術振興機構(JST)顧問が選出。
- 国連内外のステークホルダーが参加。その成果は7月のハイレベル政治フォーラム(HLPF)や、19年に発行されるグローバル持続可能な開発報告(GSDR)にもフィードバックされる。



2 第3回フォーラムの概要(2018年6月5-6日)

- 約1,000名が参加。星野国連代大使が共同議長を務めたほか、岸外務大臣科学技術顧問及び中村10人委員会委員ほか登壇・発言。
- 本セッションでは、SDGsの5つのゴール(6(水・衛生), 7(エネルギー), 11(都市), 12(生産・消費), 15(陸上資源))のほか、STIロードマップ、急速な科学技術の変化、伝統的知識等を議論。日本からは岸顧問を筆頭にSTIロードマップにかかる日本の取組みを紹介しつつ、各国にその策定を奨励。
- その他、24件のサイドイベント、3件の特別イベント、共同議長レセプション、展示を実施。今回初めてイノベーターと資金提供者等とのマッチメイキングやネットワーキングを実施。また、関連会合(CSTD, G-STIC等)とも協調した。



岸顧問

中村委員

(参考)国連STIフォーラムの概要②

3 第1回フォーラムの概要(2016年6月6-7日)

- パン・ギムン国連事務総長(当時), 経社理議長の他, 加盟国代表, 科学者, イノベーター, 市民社会関係者約400人(主催者発表)が参加。我が国からは, 有本委員(GRIPS教授・JST上級フェロー)が参加。
- 2日間の会期中, STIのSDGsに対する貢献について, 関係者・機関間のネットワーク構築, 科学技術協力, 人材育成, ニーズとギャップの検証, ベストプラクティス等の経験の共有等について議論。
- STIの役割について, 科学界を始めとして幅広いステークホルダーによる高い関心と期待が表明された(議論から行動へ)。
- 有本委員から各国科学顧問ネットワークとの連携, アカデミアにおける動き(Future Earth)やSATREPSなどを紹介。日本の貢献に対し高い評価と関心が示された。

4 第2回フォーラムの概要(2017年5月15-16日)

- 100か国から約800名が参加。日本からは, 中村JST顧問や冲国連大学副学長を始めとする専門家が, 公式プログラムのスピーカーとして登壇。
- 「未来への提言」(科学技術外交推進会議)やJST作成のグッドプラクティス集が大きく取り上げられ, 参加者の注目を集めた。
- 24のサイドイベントのうち, SATREPSに関するサイドイベント(国連代表部, JICA, JST, AMED主催, 世銀と共催)は最も参加者を集めた会合の一つで, サブスタンスの面からも高い評価。
- こうした日本の積極的な姿勢及びサブスタンス面での貢献により, 国連事務局及び加盟国から, 我が国のSTI分野での貢献に対する期待が寄せられた。



カマウ共同議長(左)とトレキアン共同議長
(第1回及び第2回フォーラム)



サイドイベントの様様